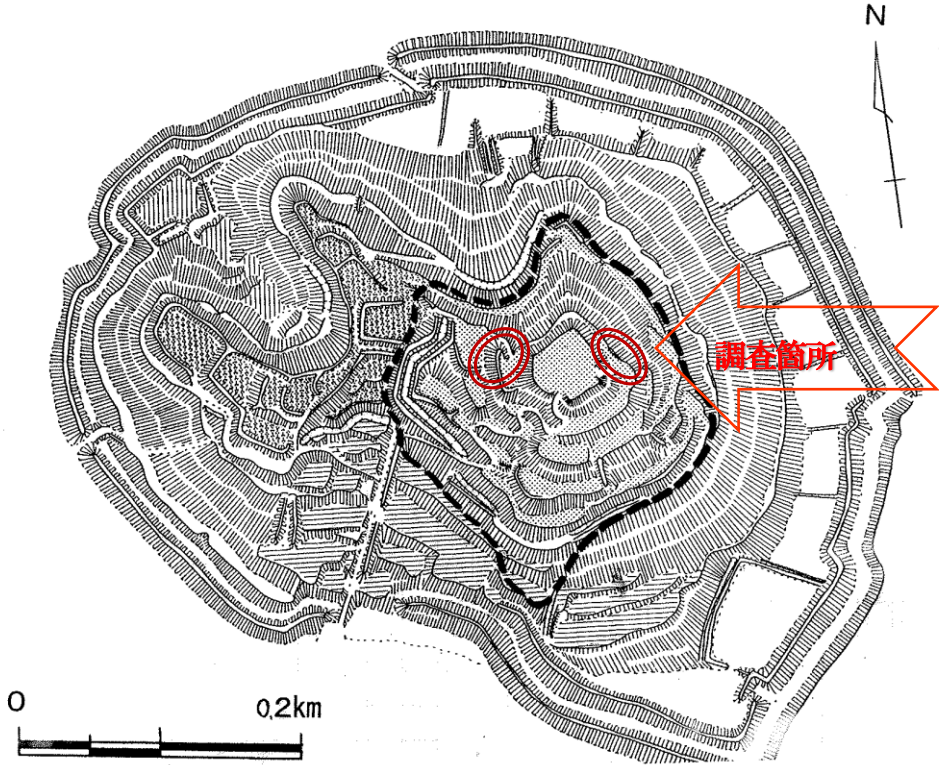
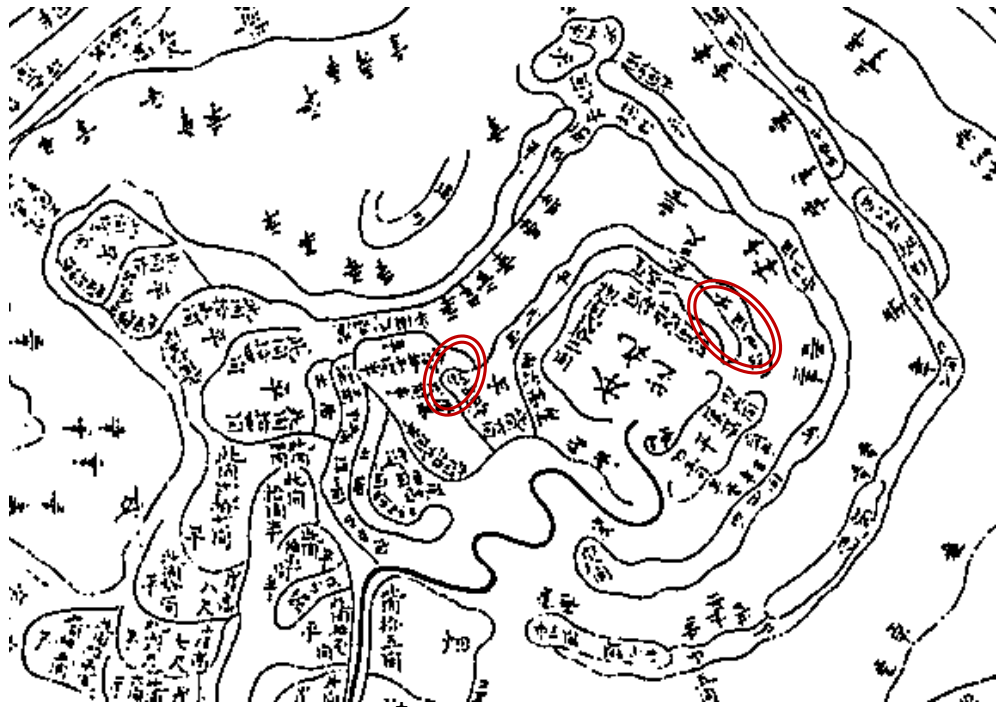


史跡小牧山主郭地区第13次発掘調査 史跡小牧山整備計画専門委員会資料

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(模写・部分拡大)
※十七世紀中頃 名古屋市蓬左文庫所蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう
小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約 300㎡

調 査 期 間

令和2年8月～令和3年2月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

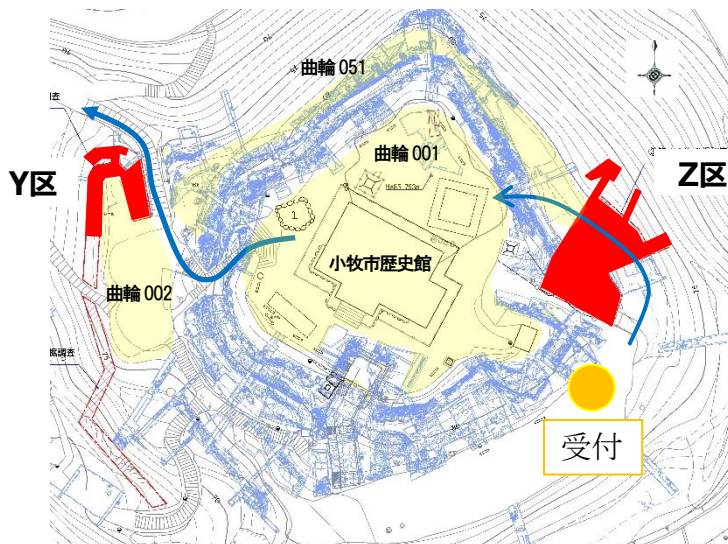


図1 調査位置（Y区・Z区）と見学ルート

1 調査の概要（何がでてきたのか）

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4ヵ年の試掘調査と12ヵ年の発掘調査を経て、今年度が17年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています（表1）。

今年度は主郭西側下の曲輪斜面（Y区）と主郭東側（Z区）で調査を行いました（図1）。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

調査年	調査名	主な成果
平成16年(2004)	1次試掘	石垣の存在を確認
平成22年(2010)	3次発掘	墨書石垣石材出土
平成26年(2014)	7次発掘	3段目石垣を確認
平成27年(2015)	8次発掘	搦手口で礎石確認
平成29年(2017)	10次発掘	小牧山主郭西で出入口の可能性のある石垣列を確認。
平成30年(2018)	11次発掘	「信長の館」の可能性のある建物跡を確認
平成31年(2019)	12次発掘	大手の登城道が6～7mの幅員を持つことを確認。

表1 これまでのおもな調査成果

【1】 Y区で石垣列(写真1)と玉石敷遺構(写真2)を確認しました(図2)。

Y区は主郭西側にある曲輪002下の斜面に位置し、主郭地区第10次発掘調査によって、小牧山城の主郭に至る出入口（虎口）の存在をうかがわせる石垣列を確認した場所に当たります。今年度の調査では、以前検出された石垣列の延長を見つけ、主郭に至る出入口の構造を確認する目的で調査を実施しました。10次調査見つけた石垣列は延長1.1m、残存する高さは、30cmほどです。使用されている石材は、50cm程度の自然石（小牧山産堆積岩）を主体とする野面積ですが、一部に川原石が使われていました。川原石は割面を下にして据えられています。

今回の調査では、その西側で石垣列が検出されました。石材も同様に自然石（小牧山産堆積岩）で、大きさは30～50cmです。基底部を中心に確認され、延長は約1.3m、残存する裏込石から推定される高さは70cmほどです。



写真1 石垣列（Y区）

【2】Z区で、石垣Ⅱ・Ⅲのプランが明らかになりました(図3)。

Z区は、主郭(本丸)の東側に位置し、主郭東側の搦手口と考えられる出入口周辺にあたる調査区です。Z区の周辺では、主郭地区第7次・8次調査が行われており、主郭を巡る3段の石垣や門の可能性のある礎石、石組側溝が確認されています(小牧山城では確認されている3段の石垣を山頂側から、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと呼称しています)。

かつて存在した屋外トイレにより石垣Ⅰはほぼ滅失していましたが、石垣Ⅱと石垣Ⅲが検出されました。石垣Ⅱは、調査区北西側から南東にかけて4.5mほどで屈曲し、南に向かって4.7m続きます。その先にも、裏込石が残っていることから、石垣があったと推定され、その長さは2.8mほどです。石垣Ⅱを構成する石材は、40~60cm大の自然石(小牧山産堆積岩)です。石垣の隙間を詰める間詰石も残存していました。石垣Ⅱは基底部を確認したにすぎませんが、残存する裏込石の高さなどから、高さは約1mと推定されます。また、石垣Ⅱでは、背面で岩盤を水平・垂直に加工(地業)し、石垣を構築した様子が確認できました(写真9)。

また、石垣Ⅲは平坦面(曲輪051・曲輪021)の北東側の斜面で見つかりました。Z区内における推定延長は約18.5mです。推定高は1mの腰巻石垣(土塁の下部のみに石垣を築いたもの)です。石垣Ⅲを構成する石材は35~55cmほどの大きさで、10cm大の間詰石も残存しています。石垣Ⅲはこれまで主郭北斜面と南東斜面で確認されていました。今回Z区で石垣Ⅲを検出したことにより、3段目の石垣が主郭の北~東~南にかけて巡っていることが判明しました(写真7・8、図3)。

【3】石垣Ⅱの前面の平坦面で、玉石敷遺構が2箇所確認されました(写真3、4)。

Z区確認された石垣Ⅱの前面の平坦面(曲輪051・曲輪021)で、玉石敷遺構が2箇所確認されました。玉石(川原石)は小牧山内で採取できるものではなく、ある一定の規格に沿って選別し、外部から持ち込んだものと推定されます。

石垣Ⅱに接して敷設される玉石敷A(写真3)の範囲は2~3mほどで、玉石の大きさは直径5~15cmほどです。平らな面を上に向けて敷いている玉石が多いですが、扁平ではない石も敷かれているため、やや凹凸が見られます。また石垣Ⅱに近いほど密に敷き詰められている印象を受けます。この玉石敷の近くには、遺構面に据えられた最大径1.2mほどの巨石が確認されました。

巨石の北西側では玉石敷B(写真4)が確認されました。この玉石も直径5~15cmほどの大きさで、確認された範囲は、東西約3.5m、南北約2mでした。玉石敷Aと比べると、扁平な玉石がほぼ凹凸なく、密に敷かれています。



写真3 石垣Ⅱと玉石敷遺構 (Z区)

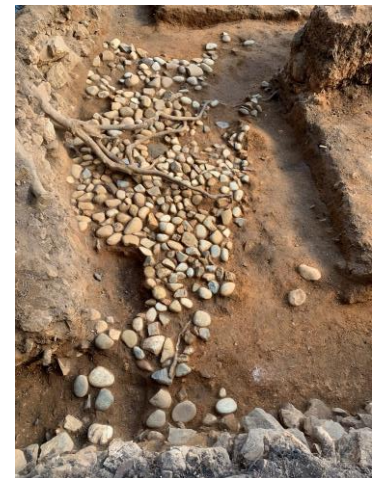


写真4 玉石敷B (Z区)



写真5 玉石敷遺構 (第6次調査)

これまで小牧山城の調査では、玉石敷遺構は2箇所を確認されています。石垣Ⅱに接して検出された玉石敷遺構（第6次調査・写真5）と礎石建物に伴う玉石敷遺構（第11次調査・写真6）です。今回の調査では、周辺に建物跡や排水施設が確認できていないことから、これまで小牧山城で確認された玉石敷とは異なる用途・機能を目的として敷設された可能性があります



写真6 玉石敷遺構（第11次調査）

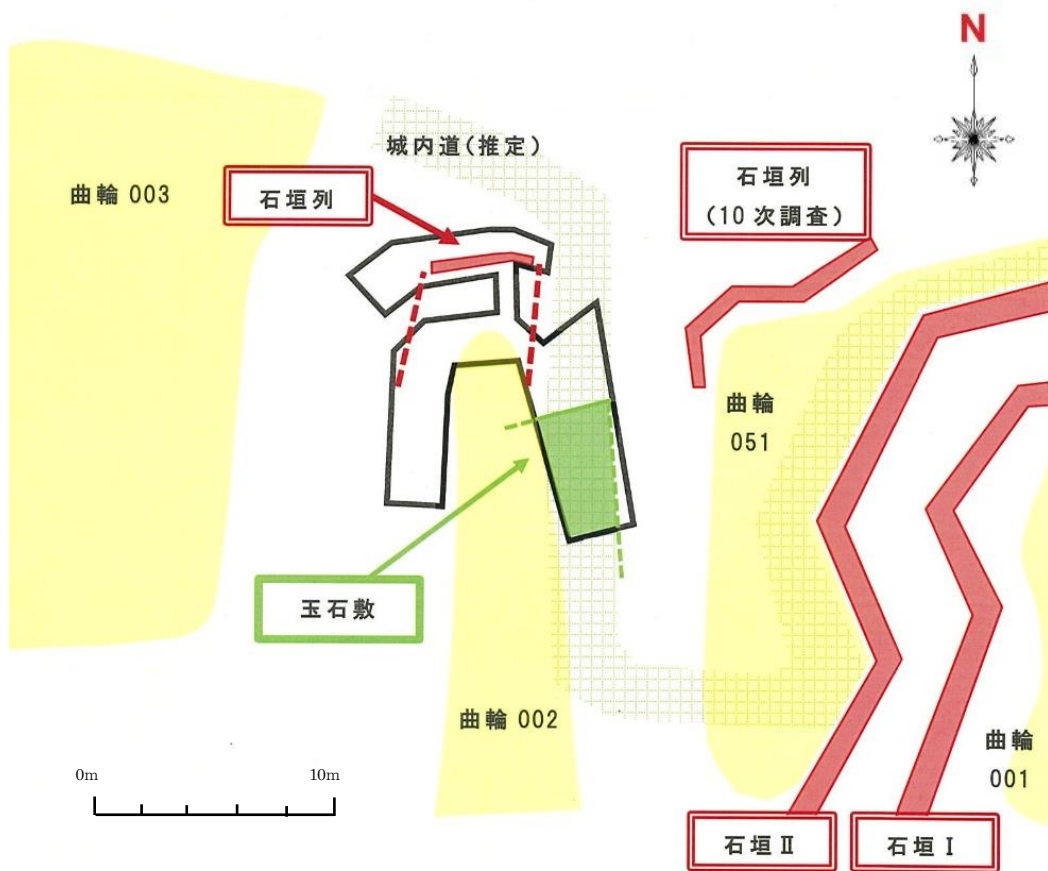


図2 遺構略測図（Y区）



写真7 石垣Ⅲ



写真8 石垣Ⅲ

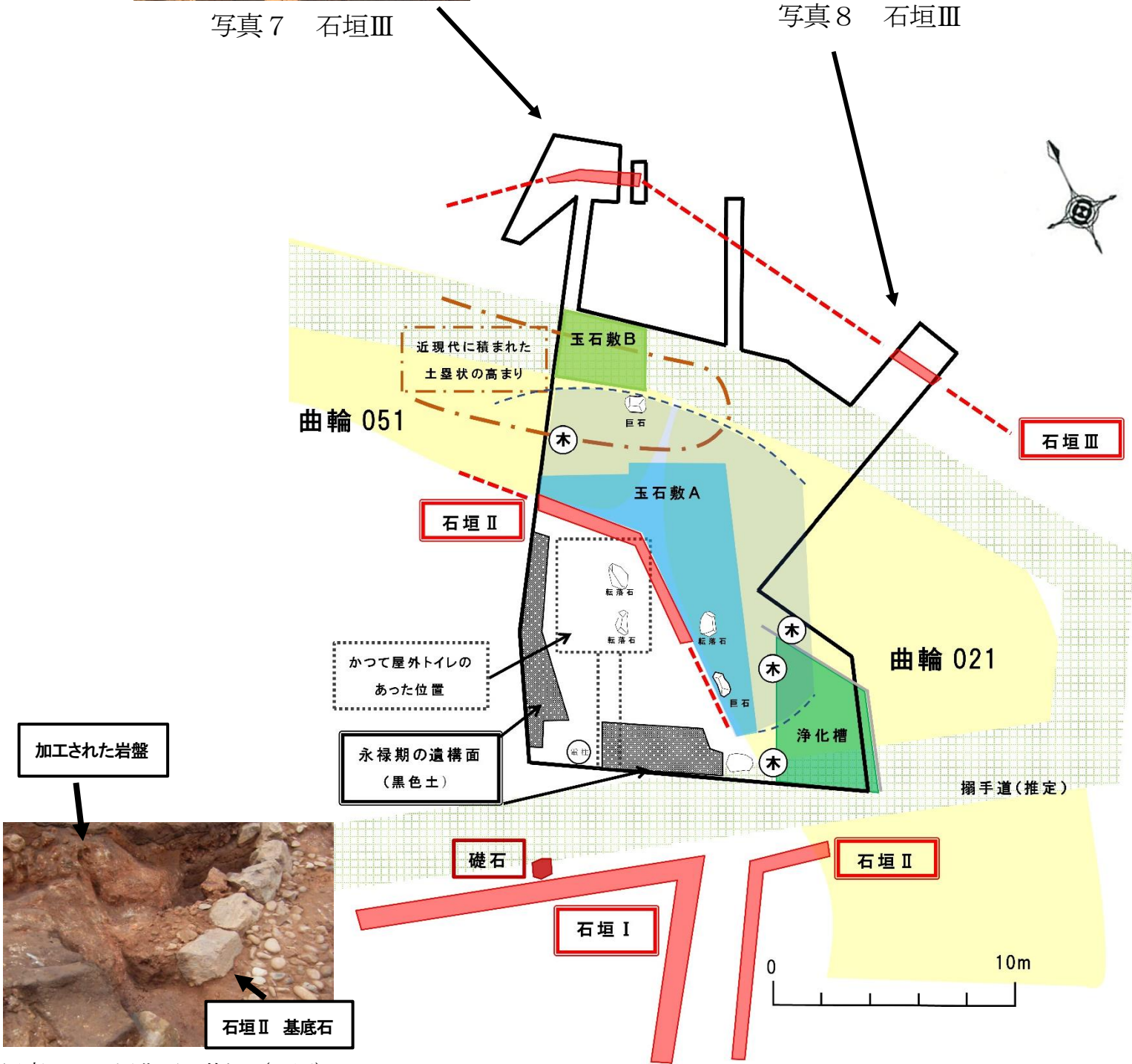


図3 遺構略測図 (Z区)



写真9 石垣背面の状況 (Z区)

付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の戦い (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長年間	名古屋城築城。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始 (～平成20年まで：第1～4次調査)
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始 (～令和3年まで：第1～13次調査)
	31年 (2019)	小牧山城史跡情報館 (れきしるこまき) オープン

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清須城 : 石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城 : 石垣構築	○
永禄10年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城 (千畳敷) : 巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安土城 : 総石垣	○
天正10年 (1582)	49 歳	本能寺の変		